

子育てを楽しめる
まちづくりを考える
ワークショップ
実施報告書

平成29年10月
生駒市

目 次

I 開催概要	1
II ワークショップの記録	6
1 開会・あいさつ	6
2 全体ファシリテーターによるミニ講演	7
3 グループワーク(主な意見)	9
4 全体ファシリテーターによるコメント	13
5 閉会・あいさつ	14
III 各グループから出された意見	16
グループ1	16
グループ2	21
グループ3	25
グループ4	30

I 開催概要

【目的】

生駒市における就学前教育・保育のあり方に関する基本方針の策定に当たって、現状把握と重点課題の抽出・整理を行うため、関係者から意見やアイデアをうかがう。

【概要】

〈内容〉

生駒市教育大綱における基本方針の一つである「子育てを楽しめる地域づくり」、生駒市子ども・子育て支援事業計画における基本理念である「子育て楽しいね！いこま」を受け、「子育てを楽しめるまちづくりを考える」をテーマに、教育・保育関係者、保護者、地域住民、市民団体のメンバーで意見交換やアイデア出しを行う。

〈日時・場所〉

平成 29 年 9 月 24 日（日）9 時から 12 時 生駒市役所大会議室

〈参加者〉

幼稚園教諭、保育士、保育教諭

保護者

地域代表（自治会、民生児童委員等）

子育て関係 NPO、学生

【プログラム】

- 1 開会・あいさつ
- 2 全体ファシリテーターによるミニ講演
「子育てを楽しめるまちづくり」
講師：吉岡 眞知子（東大阪大学副学長・こども学部教授）
- 3 グループワーク「子育てを楽しめるまちづくりを考える」
 - 進め方の説明
 - グループワーク 1：子育て楽しい？
 - ・子育てを「楽しい」と思う瞬間はどんな時？
 - ・どんなことが楽しいのでしょうか？
 - 休憩
 - グループワーク 2：子育てを楽しむために
 - ・子育てを楽しむために必要なことは？
 - ・子育てを楽しめるまちを実現するためには？

【参加者】

グループ1 9名	保護者：3名 民生児童委員：1名 NPO：1名 学生：2名 保育教諭：2名
グループ2 8名	保護者：3名 自治会：1名 民生児童委員：1名 学生：1名 保育教諭：2名
グループ3 8名	保護者：3名 民生児童委員：1名 NPO：1名 学生：1名 教諭：2名
グループ4 8名	保護者：3名 自治会：1名 NPO：1名 学生：2名 保育士：1名

【ファシリテーター】 アルパック 株式会社地域計画建築研究所

子育てを楽しめるまちづくりを考えるワークショップ

●日時

平成 29 年 9 月 24 日（日） 9：00～12：00

●会場

生駒市役所 4 階 大会議室

●プログラム

- 1 開会・あいさつ
- 2 全体ファシリテーターによるミニ講演
「子育てを楽しめるまちづくり」
講師：吉岡 真知子（東大阪大学副学長・こども学部教授）
- 3 グループワーク「子育てを楽しめるまちづくりを考える」
 - 進め方の説明
 - 自己紹介
 - グループワーク 1：子育て楽しい？
 - 休憩
 - グループワーク 2：子育てを楽しむために
 - 発表
- 4 全体ファシリテーターによるコメント
- 5 閉会・あいさつ

グループワーク 1：子育て楽しい？

- 子育てを「楽しい」と思う瞬間はどんな時ですか？
- どんなことが楽しいのでしょうか？

思いつくことを
なんでも書きま
しょう！

何気ないしぐさか
ら子どもの成長に
気づくとき

子どものことをき
っかけに色々な人
と知り合えること

子どもと一緒に
いろいろ学べる
こと

...

グループワーク 2：子育てを楽しむために

- 子育てを楽しむために必要なことはどんなことでしょうか？
幼稚園・保育園・子ども園はどんなだったらいい？
地域の環境は？

どうなれば「楽
しい」と思える
瞬間が増えるで
しょう？

幼稚園の空き教室
を子育てサークル
の活動に使いたい

地域の大人が子ど
もたちを見守って
くれている

親子で参加できる
イベントに使える
施設が地域にある

...

- 子育てを楽しめるまちを実現するためには？
生駒のまちにある資源（使えるもの）は？

生駒のいいところ
を探しましょう！

身近なところに
自然がたくさん
ある

いろんな
市民活動が活発

昔の暮らしを
教えてくれる高齢
者が地域にいる

...

できることを考えよう！

（保護者や市民として、保育園・幼稚園・子ども園として、行政に手伝ってほしいこと）

自分たちで
できることを
書いてください

保育園・幼稚園・
子ども園として
できることを
書いてください

行政に手伝って
ほしいことを
書いてください

...

それぞれの立場で
考えましょう！

ワークショップの様子



Ⅱ ワークショップの記録

1 開会・あいさつ

生駒市教育委員会

教育長 中田 好昭

おはようございます。日曜に早朝からお集まりいただき、ありがとうございます。皆様には日頃から幼稚園、保育園、行政に対して協力賜りまして、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

本日のワークショップについて、簡単に御説明します。生駒市では、現在「就学前教育・保育のあり方に関する基本方針」を作っております。この作成に当たり、就学前児童の保護者の皆様、子育てに関わる地域の皆様、教育関係者の皆様の色々な意見をお聞きして、この基本方針に反映したいと思っています。そのため、ファシリテーター役の東大阪大学副学長の吉岡眞知子先生をお迎えして、「子育てを楽しめるまちづくり」をテーマとしてワークショップを開催します。

この「就学前教育・保育のあり方に関する基本方針」について少し御案内します。背景を言うと、日本全体で少子高齢化が進む状況にあり、共働き世帯が増えております。子供たちを取り巻く環境が、昔と比較して大きく変わってきました。このような状況の中、就学前教育、保育が以前に増して重要だという考えのもと、生駒市として今後進むべき方向について考えたいと思っています。

生駒市では、人口の急増により、小学校 12 校、中学校 8 校、幼稚園 9 園の公共施設を一時期に一気に建てた経緯がありますが、今後、こども園化の流れがあり、ハード面においても変わってくる状況にあります。本日は、ハード・ソフト両面から様々な意見を出していただきたいと思います。

ちなみに本市の現状としては、この 10 年間で市内の保育園の定員は 900 人近く増え、2,300 人を超えました。全国的に課題となっている待機児童は、生駒市でもこの 4 月で 46 人発生しています。1、2 歳のお子さんを保育所に入れたいというニーズは、この 5 年間で 1.5 倍増えております。また、一方で公立の幼稚園に通う園児は、この 5 年間で 500 人以上減少し、1,193 人となっております。保育園では保育場所や保育士の確保、幼稚園では空き教室の活用などが課題となっております。

このような状況の中、生駒市ではこれまで子育てや教育に力を入れてきましたが、さらに今後子どもたちの健全な育成を目指して、頑張っていきたいと思っています。是非とも本日は皆様の忌憚のない御意見を賜り、基本方針、さらに政策に反映していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2 全体ファシリテーターによるミニ講演

「子育てを楽しめるまちづくり」

講師：吉岡 眞知子（東大阪大学副学長・こども学部教授）

おはようございます。御紹介いただきました東大阪大学の吉岡と申します。よろしくお願ひします。子ども子育て会議等において、以前より特に就学前教育のあり方を、行政の方々と一緒に考えてきました。

生駒市の子どもたちが健やかに育っていくためにはどうしたらよいのかということが、一番基本となる考えだと思います。そして、子どもたちを私たちがどのように育てていけばよいのか、市民一人ひとりがそれぞれの立場で考えていくことが非常に重要だと思います。子ども自身は、自分がこうしたいと思っけていてもなかなかできません。その環境を作るのが私たち大人の役割です。子どもが健やかに育ちやすい環境にするためには、どういう課題があり、どういうことを考えればよいのか、本日はお話しさせていただきたいと思ひます。

「子育てを楽しめるまちづくり」をテーマに話し合つと書いていますが、子育てを楽しむのは一体誰なのでしょう。親が楽しんでくれるような支援が必要だと考えがちになりますが、親だけでよいのでしょうか。それはとても狭い考え方です。親だけではなく色々な世代、子どもがいることで、楽しい生駒市のまちができあがっていくというイメージで考えていただかないと、本当の「子育てを楽しめるまち」は達成しないと考えています。子育てを経験した人たち・子育てが終わった人たちが沢山いると思ひます。高齢者にとっては、子どもがいることでどんな楽しいことができるか、もっと精力的にどう関わればどんな楽しいことができるかということも考えてほしいと思ひます。子どものおかげで自分がこのまちで生きて楽しいと

思えるように、広い視野で意見交換いただきたいと思ひます。

教育長の話にもありましたが、少子化が全国的に問題になっています。こういう状況で子どもたちにとってどういふマイナス事項があるかという、色々な人たちと出会つたり、関わつたりする機会がどんどん少なくなるということ。幼稚園・保育園・小学校も沢山の子どもたちが集まりますが、同年齢の子とのつながりが中心となっています。同年齢の人間関係はできますが、異年齢の関係が非常に弱い部分です。それを解消するのが、地域での関わりですが、地域でも異年齢の子ども同士と遊ぶ機会がなくなつています。また、地域住民の方々があまり外に出ないので、近所の大人の顔も知らないし、関わる機会も非常に少なくなつてきています。色々な人と顔を合せて関わることで、自分と違う人たちがたくさんいて面白い、楽しい、と思えるようなまちになってほしいと私は願っています。

生駒市に南こども園ができました。できるまでは、幼稚園と保育園が一緒になることに対するマイナス面や心配が意見として出ていました。幼稚園・保育園が一緒になることによって、幼稚園のような、少し早く帰つて午後はお母さんと過ごす環境の子どもたちと、保育園のような、親が仕事をしていて帰りが遅くなる環境の子どもたちが1つになって生活しながら、色々な人たちがいることを感じ、受け入れる機会になるという大きなメリットもあると思ひます。幼稚園は幼稚園、保育園は保育園と考えるのではなく、地域全体で地域の子どもたちをどのように育てていけばよいのかという視点で、今日

のワークショップを考えていただけたらと思います。そうすることによって、色々な世代の人たちが、子どもがいることによって喜びを感じられるまちづくりにつながると思います。

そして、生駒市のまちの良さにも視点を持ってほしいと思います。他市ではできないような、生駒市だからこそできることもあると思います。南こども園を作る時も、生駒の緑とさわやかな空気を園舎に取り入れられるような構造にしたいという意見があったと思います。それは生駒市だからできることだと思います。

最後に、「人が生きる」とはどういうことかということを考えてほしいと思います。子どもたちは、未来を作り上げていってくれる存在で

あり、可能性をたくさん持っています。そして、私たち大人は、その子どもたちの可能性をしっかりと引き出せる環境を作っていく使命があります。そういう使命感を持ちながら、子どもの成長をじっくりとみんなで見守って、喜びを感じられる、そのことによって私たちが活かされていく、ということをもみんなで認識して、みんながいきいきとしたまちになってほしいと思います。

本日は色々な知恵を出し合ってください。そして、本日話し合った内容を行政の人たちが施策に活かすことを考えていただけるので、色々な発想で意見が出たら楽しいと思います。よろしくお願い致します。

3 グループワーク(主な意見)

グループワーク1：子育て楽しい？

■子育てを「楽しい」と思う瞬間はどんな時ですか？

■どんなことが楽しいのでしょうか？

子どもの成長

- ・苦手なことやできなかったことがいつのまにかできるようになっている
- ・子どもの成長を間近で見て感じとることができる

子どもならではの発想・視点

- ・子どもならではの素直な言葉や態度がおもしろい
- ・親の想像を超えた発想や行動に無限の可能性を感じる

子どもの笑顔・目の輝き

- ・疲れたときでも子どもの笑顔にパワーをもらえる
- ・子どもの目がきらきら輝いている

子どもとの共感・共有

- ・遊びを通して楽しさを共感し合える
- ・目標に向かって頑張る子どもたちを応援し一緒に達成感を味わえる

親としての成長

- ・子どもからたくさんの刺激をもらい大人が気づくきっかけになる
- ・子育ての活動を通して自分自身が成長できていると感じる

大人の世界の広がり

- ・子どもの興味で自分の世界も広がる
- ・子どもを通じて新しい経験ができたり、新しい発見がある

子育てを通じた人のつながり

- ・子どもを通してたくさんの友達ができる
- ・家族の結びつきが強くなる

地域にとけ込む子ども

- ・まちでばったり会ったとき笑顔であいさつしてくれる
- ・地域のおじいちゃん、おばあちゃんが元気になる

など

グループワーク2：子育てを楽しむために

■子育てを楽しむために必要なことはどんなことでしょうか？

魅力的なイベント・教育

- ・親子で参加できるイベント
- ・地域の環境や人と関わる様々な体験や自己表現ができる機会
- ・達成目標を明確にしたカリキュラム

遊びの環境

- ・雨天時などでも親子で楽しんで遊べる
- ・降園後の子どもたちが安心してのびのびと遊べる
- ・異年齢の未就学児同士が交流できる

サードプレイス

- ・親子で利用できる園でも家庭でもない場所

相談や交流

- ・子育ての悩みがいつでも相談できる
- ・気持ちを打ち明けられる相手を見つけられる
- ・保護者同士が知り合い交流できる

保護者の安心・息抜き

- ・利用しやすい一時保育のサービス
- ・病気のときなど緊急時に対応できる仕組み
- ・保護者のストレスを発散できる

情報共有

- ・保護者と園で子どもの成長を共有しあえる
- ・様々なイベントなどの情報が得やすい

地域との交流

- ・地域のいろいろな立場や年代の人との関わりがもてる
- ・保護者も地域の人たちと知り合いになる
- ・園の教諭・保育士が地域の人と交流できる

など

■子育てを楽しめるまちを実現するためには？

◎生駒のまちにある資源（使えるもの）は？

施設やイベント

- ・ 体育館、コミュニティセンター、公民館などの施設やイベントが多い
- ・ たくさんの園や学校がある
- ・ 市のイベントが多い

多様な人材

- ・ 地域貢献意識がとても高い高齢者が多い
- ・ 特技をお持ちの高齢者がたくさんいる
- ・ 学生や高齢者のボランティアがいる
- ・ 子育てや遊びを教えてくれる NPO がある

地域活動・市民活動

- ・ 地域に高齢者のサロンやファミリーサポートなどの活動がある
- ・ 手づくり市など市民による活動が多い

文化

- ・ 北の地域では昔ながらの文化が残っている
- ・ 神社のお祭りがいろいろある

自然

- ・ 住宅地の近くに豊かな自然がある
- ・ 田んぼの水路にザリガニ、カエル、メダカがいる
- ・ きれいな川がある
- ・ 生駒山が身近に感じられる環境

公園

- ・ 小さな公園がたくさんある

空き家

- ・ 地域に空き家がある

など

◎できることを考えよう！（保護者や市民として、保育園・幼稚園・こども園として、行政に手伝ってほしいこと）

<自分たちでできること>

- 子どもと遊ぶ
 - ・地域の子どもたちと一緒に遊ぶ
- ボランティア・お手伝い
 - ・イベントの企画や運営の手伝いをする
 - ・子育てや教育の相談相手になる
 - ・子どもが外で安全に遊べるように地域に目を配る
 - ・自分の仕事や特技を活かしたボランティアをする
- 交流の機会づくり
 - ・子どもと一緒に地域活動に参加して世代を超えたつながりをつくる
 - ・高齢者と子どもが交流できる機会をつくる
 - ・保護者同士の横のつながりを深める
 - ・地域の大人同士の交流を深める
- 情報の収集・発信
 - ・広報などでこまめに情報収集する
 - ・生駒市、地域、NPOなどの取組を知って広める
- 自分できることを前向きにがんばる
 - ・人をあてにせず、自分でできることは自分でやる
 - ・PTAなど園行事に参加する
 - ・地域組織のあり方、保護者会のあり方を考える

<保育園・幼稚園・こども園としてできること>

- ・保育の中に地域の自然や特色を生かす
- ・地域との連携、施設の開放
- ・職員だけでなく地域の方も参加してくださる園づくり
- ・地域の方と園の子どもたちの交流の機会を増やす
- ・いつでも気軽に園に来てもらえる環境づくり
- ・保・幼・小の交流、連携（カリキュラム面など）
- ・情報の提供など専門機関としての役割を担う

<行政に手伝ってほしいこと>

- ・NPOや地域の取組の情報発信や情報交換の場づくり
- ・NPOや地域の取組に対する経済的な支援
- ・ボランティアなどの人材バンク、マッチングや派遣
- ・多様なニーズに対する支援（一時保育、病児保育、放課後保育など）
- ・幼稚園や保育園の運営に対する支援
- ・子育てしやすいまちづくり（ベビーカーで移動しやすい、身近にある小児科、買い物しやすい、交流できる場所 など）

など

4 全体ファシリテーターによるコメント

吉岡 眞知子（東大阪大学副学長・こども学部教授）

長時間皆さん活発に意見を述べられていて、素晴らしいと感じました。子どもたちにとってすごく良い材料を出していただき、いかに実現させていくかということが非常に大事だと思いました。

意見交換を聞いていて感じたのは、子どもたちはあまり意識しないで色んな人や色んなことに飛びこんでいったりできるのですが、むしろ我々大人がどこかで線を引いてしまっているということです。幼稚園は幼稚園、保育園は保育園、自治会は自治会の役割をやっていて、個々には積極的にやっているところもあるのですが、一歩引いてしまっているところがあるという意見がありました。高齢者も含め、色んな力を与えてもらったりしながら、1つになっていくことができれば、という意見もありました。

できて2年目のこども園の保護者の話が出ていました。保護者同士の関わりや役割の負担に色々悩みがあるというような話でした。子どもたちはどうなのだろうと考えたとき、保育園・幼稚園とは関係なく、隔てなく遊んでいるのではないかなと意見を聞きながら思っていました。今までの概念をまず我々大人が取り去って、新しいものを作るという発想が大事だと思います。

高齢者の方が、子どもたちと一緒にいると元気をもらうという話もありました。地域では高齢者同士の集まりはあるけれど、子どもを入れた集まりがなく、そういうものがあればいいという意見もありました。色んな活動が世代ごとに沢山できてきているのですが、世代間がつながるような活動がないのが1つの大きな課題かなと私自身学びました。

それでは、そういう状況を解決するために、どうしていったらいいのかということを考えました。例えば、昔は子ども会がありました、今は役員をするのが大変になってきて、大人の都合でなくなっていくところが多くあります。子どもの立場からだと楽しいと思えることでも、大人の都合で削っていることが沢山あるのではないかということを反省として学びました。

例えば、保護者が忙しく、PTA活動を積極的にやるという人がなかなか出てこない状況にあるので、地域の高齢者が参加して、お母さん方を支援していくことができるというのは、という意見も出ていましたが、とてもいい意見だと思いました。そういう発想の転換が非常に大事だと思います。

最初のあいさつで教育長が、保育園・幼稚園に通う子どもの数、幼稚園の空き教室のことなどを話していましたが、幼稚園は幼稚園で守り続けていくのか、それとも地域の人たちも入れた活動のできる、新しい就学前の教育の場を作っていくのか、発想を変えていくことが大きな課題かなと思いました。

実現するためには、率先して動く人が必要です。大抵はみんなが引いてしまいますが、今日ここへ来られた方は積極的に何かをしないとイケないと思っていただいている方々だと思います。誰かが言い出さないとスタートしないという意識も持ちながら、ここにいらっしやっただけの人たちがきっかけとなり広めていってほしいと思います。

私も含め、本日は色んな意見を聞かせていただき大変勉強になったと思います。ありがとうございました。

5 閉会・あいさつ

生駒市長 小紫 雅史

本日はお休みの朝にお越しいただき、ありがとうございました。途中からで恐縮ですが私も拝見し、そのコメントをさせていただきたいと思います。

皆さんに色々な立場から御意見をいただきましたが、まずそれを受けて市役所がどうしていか考えなければなりません。そして、園や地域とどのように連携しあっていくか考えなければなりません。ここにいる方はもちろんですが、学校の先生方、地域の皆様、保護者の皆様が、今回できることとして挙げていただいたことを1つでも、自分たちでどう実現できるか考えていただき、具体化していきたいと思いました。

こういう場所があったらいい、こういう機会があったらいい、情報の発信をもっとすべき等色々な意見がありました。我々行政が反省し、やらなければならないと思ったことも、今の発表の中に実はいくつかありました。同時に、園、保護者の方、地域の方とどう上手く組んで具体の形にしていくか、今後もワークショップをして考えたいと思いました。来年度になります。今日議論していただいたようなことの続きを、またワークショップで考えていきますので、自分だったらこういうことができる、とか、こんなことをしたら面白い、といった話がしたいと思った方は、是非手を挙げていただければ有難いです。

色々な御意見があり面白かったのですが、具体的に印象に残ったことを言うと、市役所の情報発信が弱いという意見です。とても反省しているところですが、3人の子どもの父親である私を含め、受け手がどういう形で情報発信してくれたら受け取りやすいのか、受け手側はど

うやって情報を取りに行くのか、教えていただけると有難いと思いました。更に自分たちもこういうことができるという話があれば、次のステップにつながっていくと思いました。

地域での活動、園での活動、色々な団体の活動がありますが、高齢化が進んできて大変だという話をよく聞きます。例えば、育児関係の団体など、個別の団体の活動は色々な活動が出てきています。更に、学校教育や園とは関係ない生涯学習系の市民活動は、生駒市ではとても勢いがあります。吉岡先生がおっしゃったことに関連するのですが、自治会の活動、園の活動、それぞれで頑張っているのですが、上手くつながってないように思います。ただ、それはこれからのポテンシャルだと思いますので、色々な団体が上手くつながっていければ、もっと活動が発展すると思いました。

雨天時の遊び場、育児の相談場所が少ないという意見がありました。東大阪市のドリーム21は私もよく行くので、あんな室内遊技場ができたらいと思います。そのようなアスレチック広場を今すぐ生駒市に作ることは無理です。それよりは、相談機関もある生駒市のみっきランドのようなところを活用していただいた方が早いと思います。そういった機能があることも、おそらく情報があまり伝わってなかったのかもしれませんが、アスレチックがなくても、子どもたちは遊びます。地域の自治会や空き家などを使って、子どもたちが遊ぶことができるような場所をつくるというのも、面白いと思いました。

また、サードプレイスという話が出てきましたが、生駒市では家庭・仕事に加えて、第3の活躍の場所という意味でサードプレイス

という言葉を使っています。PTAの役員になるのは、確かに大変ですが、全ての保護者の方がちょっとしたことでもやれば、PTAの役員になるのは大変なことではなくなるのではないのでしょうか。みんながちょっとずつやるという意識ができれば、本日挙げたことも実現していけるような地域になるとと思います。これまでは大体市民活動と言うと、仕事をリタイアされた高齢者の方、まだ仕事をしていない学生、子育てがひと段落した専業主婦の方がやるが多かったですが、忙しい人こそこういうことに少しでも関わると、支えあっていけると思

います。

本日のワークショップを踏まえて、4月までの間に生駒市でも色々と議論します。冒頭で申し上げましたが、同時に4月から今日のお話と関連する形でワークショップをまたやっとうと思います。一緒に実現していきたいという方がいらっしゃいましたら、ワークショップに手を挙げていただきたいと思っております。

大変お忙しい中、長い時間ありがとうございます。いただいた意見を私も全部見て、市の取組に生かせるものをしっかり考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

Ⅲ 各グループから出された意見

グループ1

グループワーク1：子育て楽しい？

- 子育てを「楽しい」と思う瞬間はどんな時ですか？
- どんなことが楽しいのでしょうか？

親として成長

- ・子供からたくさん刺激をもらい大人が気づききっかけになる
- ・子育ての活動を通して自分自身が成長できていると感じるとき
- ・親としてできることが増えたとき

地域にとけ込む子ども

- ・子どもたちが地域に溶け込んで活動しているとき
- ・町でばったり会ったとき笑顔であいさつしてくれる
- ・子供同士がつながり遊び始めたとき

子どものペース

- ・子どものペースでゆっくり一緒に遊んでいるとき
- ・子どもの時間に合わせ大人がゆったりと待ったり、温かい言葉がけをしているとき

子どもが話をしてくれる

- ・子どもが出来たことを言葉を交えて教えてくれる

子どもの信頼

- ・信頼関係が出来たとき
- ・子どもに頼られたり、信頼されるとき

子どもならではの発想・視点

- ・親の想像を超えた発想や行動を子どもがしたとき、無限の可能性を感じてうれしく思います
- ・子どもならではの素直な言葉や態度のおもしろさ
- ・子どもの素直な発想での言葉を聞いたとき
- ・子どもならではのおもしろい発想が見ていて楽しい

子どもの成長

- ・意識の変化
- ・子どもから「お手伝いをしたい」と言ってくる
- ・一緒に遊んでいる中で成長が見られたとき
- ・苦手なこと、出来なかったことが出来るようになったとき
- ・子どもの成長が間近で見られるとき
- ・就園前から就園後の子どもの成長を見たとき
- ・年々、ひとつずつ感情豊かになり複雑な感情を持つように成長してることを感じたとき

- ・病気や怪我をせず毎日、ゆったりと成長している日々を見ているとき

子どもの目の輝き

- ・子どもの目が輝いているとき

子どもと一緒に

- ・目標に向かって頑張る子どもたちを応援し一緒に達成感を味わえるとき
- ・子どもと保護者と一緒に作品をつくったときの子どもの喜ぶ姿を見たとき
- ・親子が同じことに興味を持ち、子どもが楽しそうに遊んでいるとき
- ・子どものしぐさを見守っているとき

いつの間にかできるようになっていた

- ・つい先日まで出来なかったことが出来た瞬間に立ち会えたとき
- ・日々教えている礼儀をきちんと実践しているのを見たとき
- ・昨日まで出来なかったことが今できたとき

大人の世界が広がる

- ・関わりを持つ人の拡大
- ・子どもを通じて知り合いが増えたこと
- ・子どもを通じて新しい経験が出来るとき

親同士のつながり

- ・親同士が子育てについての悩みやしんどさを共に出し合い自分だけではないことを感じてもらえたとき

毎日が楽しい

- ・毎日が違う、毎日が新しい
- ・子どもを通して新しい発見ができたとき
- ・子どもの笑顔が見れたとき

グループワーク2：子育てを楽しむために

■子育てを楽しむために必要なことはどんなことでしょうか？

相談や交流ができる

- ・保育園・幼稚園が親の相談もできる場であること
- ・子育て家庭の保護者が集まり気軽に話し合う場を設ける
- ・はじめての親経験者がためらい無くその場にいけないような広報
- ・地域支援事業の発信 PR の仕方

一時預かり

- ・イベント参加するとき、年少児童を預かって欲しい
- ・一時保育が安く利用できる親が一時でもほっとできて子にもやさしくできる！！
- ・子育てを楽しみと思うには親の息抜きも必要⇒親の息抜きできる場を提供してほしい

多様なイベント

- ・行事・季節などでイベントが多い

- ・幼稚園・保育園などでNPOなどの力を借りて様々な体験ができる
- ・普段の家庭生活では体験できないイベントが常時どこかで開催されている（スポーツ、文化、学習など）
- ・子どもが自由に自分を表現できるような園づくり

親子で遊べる場所

- ・親子で楽しめる施設
- ・親子で参加するイベント。他の親子との交流や意見交換
- ・生駒に親子で参加できる“屋内”イベントや遊び場があれば
- ・公民館などを開放して集団でいる時間を増やしてあげる
- ・降園後の子どもたちが安心して遊べる場所
- ・幼稚園・保育園の土日の園庭開放を増やしてもらえると体を動かす場ができていい

地域の人との交流

- ・幼稚園・保育園・こども園を通して地域の人と触れ合えるイベントなど
- ・地域の方と地域の子どもが一緒に何かをできる機会や場所があれば…
- ・自治会の夏祭りなど近所の大人と触れ合う機会を増やす
- ・関わる大人が楽しむ
- ・地域の方々と触れ合える機会の増加（お話会やボランティア）
- ・地域の方との世代間交流の機会（各世代）
- ・地域の方の“得意なこと”を子どもたちに教えてもらう機会があれば
- ・園の教諭・保育士外の地域の年配の方との遊び提供
- ・地域の方が子どもとかかわる機会を増やす（ボランティアやイベント）

地域の環境

- ・地域の大人が子供達を見守ってくれている
- ・子育ては親だけじゃないという環境づくり あたたかい目
- ・おおらかな気持ちで子どもの成長を楽しむ地域
- ・子どもが参加する地域づくりワークショップ（子どもたちの創造性を取り入れ実際に展開する）
- ・人と場所、気軽に参加できる雰囲気作り

公園や自然

- ・公園の遊具の充実 多く公園はあるものの遊具はなかつたりする。
- ・公園など遊べる場があり親も子どもも安心して遊べる環境であること
- ・子どもたちがのびのびと遊ぶことのできる空間があること
- ・自然な環境で遊べる場所があること

■子育てを楽しめるまちを実現するためには？

◎生駒のまちにある資源（使えるもの）は？

空き家

- ・空き家を利用、雨の日の遊び場

施設

- ・体育館、コミュニティセンター、公民館などのイベント施設
- ・たくさんの園、学校
- ・たくさんの子育て世代

講座

- ・どこでも講座をもっと活用する
- ・市の出前事業

イベント

- ・市のイベント
- ・自治会、回覧板にてイベント再通知する
- ・若手世代の発信力、SNS、ネットワーク、イベント情報の展開
- ・親子で参加できるイベント

意識の高い高齢者、学生、NPO

- ・地域貢献意識がとても高い高齢者の方々の特技、体験談
- ・学生ボランティア（延長保育などに）
- ・子育てや遊びを教えてくれる NPO
- ・自治会、老人会
- ・民生児童委員

市民

- ・市民の方々
- ・昔遊びなどに参加するボランティアの開拓
- ・民生児童委員様を通して、昔遊びの伝承をしてもらっている。もっと地域への活用

文化

- ・北の地域にあるお寺など（茶せん、あられ）苗植、収穫、脱穀を通して、かまどにて火をおこし、お米を炊き、おにぎりパーティー（昔の工具を見せてもらえる）

自然

- ・住宅地の中にある自然 すすき、萩の花など季節を通して押し花が生息している
- ・田んぼの水路にザリガニ、カエル、メダカがいる
- ・きれいな川がある
- ・どんぐりには困らない
- ・生駒山が身近に感じられる環境
- ・自然で遊べるように一部地域を遊ぶスペースにする
- ・生駒山を登ったり虫取りのイベント等自然に触れる機会

公園

- ・公園や自然と触れ合える
- ・たくさんある公園
- ・畑や田んぼ 自然物
- ・畑・田んぼが多いので田植えの体験や泥んこになって遊べるイベント

無いもの

- ・生駒にも児童館、子供館を
- ・路線バスの増加希望

◎できることを考えよう！（保護者や市民として、保育園・幼稚園・子ども園として、行政に手伝ってほしいこと）

<自分たちでできること>

- ・地域の子どもたちと遊ぶ
- ・イベントごとでのボランティア
- ・子育て 教育相談
- ・国際交流イベントの提供
- ・外国人市民との国際交流 ゲストティーチャーの派遣 コーディネート
- ・子どもたちと積極的に関わる
- ・生駒市の取組について知る、広める
- ・自治会、民生委員、NPO などにイベント確認して認知と参加率を上げる。
- ・子供と一緒に地域貢献活動へ進んで参加していきます⇒世代を超えたつながりをつくっていきます
- ・体力の許す限り自然と触れ合う機会を作ってあげる
- ・広報などで情報入手をこまめにして子の遊び場を探す

<保育園・幼稚園・こども園としてできること>

- ・保育の中に地域の自然を活用する
- ・職員だけでなく地域の方も参加してくださる園作り
- ・地域の方と園の子どもたちの交流の機会を増やす
- ・いつでも気軽に園に来てもらえる体制作り（保育士の余剰人数確保）

<行政に手伝ってほしいこと>

- ・NPO 地域の方々にゲストティーチャーをお願いするための予算
- ・一時預かり事業の無償化、チケット配りなど（市補助金施策）

グループ2

グループワーク1：子育て楽しい？

■子育てを「楽しい」と思う瞬間はどんな時ですか？

■どんなことが楽しいのでしょうか？

子どもたちとの関わり・成長がうれしい！

- ・とにかく楽しいことしかない（今のところは…）
- ・毎日新しい発見やおもしろいと思うことが増えていく
- ・子どもと気持ちが通じ合えたとき
- ・意外な面、発想を見出したとき
- ・子どものいろいろな表情からパワーがもらえたとき
- ・子どもがお友達と譲り合い、けんかしながら自分で考え関係を築いていってること
- ・子どもが笑顔で名前を呼んでくれたとき
- ・おじいさんとおばあさんと楽しく遊んでいるとき
- ・自分の思いが子供に伝わったとき
- ・言葉数が少なかった子がたくさん話してくれるようになったとき
- ・子どもたちと一緒に課題にむかって取り組んでいるとき
- ・控えめな性格の息子（3年生）が特技と思える水泳を見つけてメンタルも体つきも成長していること
- ・兄と妹、その友達同士で遊んでくれるようになり自分も一息つきながら過ごせるようになった
- ・自分と同じ経験を子どもがしたとき
- ・その子らしさが発揮できたとき
- ・兄の予定で動いていることが多い。娘が始めて自分のお友達と約束をして遊んでいたこと
- ・少しずつ親の手助けが必要なくなってくることで子どもが成長していると感じるとき
- ・一人ひとりの成長が感じられたとき
- ・子どもたちの笑顔「先生楽しい」の言葉、しぐさ、表現を表してくれたとき
- ・友達同士の関わりができるようになった姿を見たとき
- ・育友会活動で幼稚園、小学校を訪れるとどの子どももあいさつしてくれること
- ・友達同士の関わりが深まり人との関わりができるようになった姿をみたとき
- ・公園などで楽しそうに遊んでる子どもを見たとき
- ・兄弟で楽しく遊んでいるとき
- ・周りのことに注意できたなと感じたとき
- ・親子ともに笑顔で園に通ってくれるようになったとき
- ・子ども同士で刺激しあえ成長できたとき（課題を乗り越えたとき）
- ・できなかったことが出来る様になる姿、成長の姿（体・心）見れたとき。それを子ども保護者と共有できたとき

- ・先生が考えた環境に生き活きと遊んでいるとき
- ・親子で楽しそうにしているとき

子育てを通じて家族も楽しい！

- ・一緒にお出かけするのが楽しい
- ・自分が沈んでいるときに子どもたちがいることが頑張れる
- ・最近、年中(4才)の娘がウノ（カードゲーム）にはまり、家族で机をかこめて遊ぶ機会が増えた
- ・子育てとは親としても成長して楽しい
- ・毎日たわいもないことで笑わせてくれる
- ・疲れたときでも子どもの笑顔にパワーをもらえる

子育てを通じて人のつながりができた！

- ・子どもを通してたくさんの友達ができ
- ・道で出会った子どもが話しかけてくれたとき（あいさつも）
- ・友達と仲良く遊んでいるとき
- ・子どもも保護者も友達ができ
- ・相談できる人が増えたとき
- ・今までにない人のつながりができる

グループワーク2：子育てを楽しむために

■子育てを楽しむために必要なことはどんなことでしょうか？

色々な人が参加出来る場、支援体制

- ・子育て支援の充実、子育ての悩み相談できる機会を増やす（未就園児の集いなど）
- ・子育て支援（つどいのひろば、保育室、園庭開放など）
- ・地域におられる子育て世代の親子さんをつなげる
- ・保護者の悩みがいつでも相談できる体制づくり
- ・就労支援、預かり保育時間の充実(長期休み期間)
- ・病気のときなど緊急時に対応出来る仕組み
- ・一時預かり、学童保育、親支援
- ・ママサン CAFE でストレス発散（子どもを預かってくれる場）

情報共有

- ・保育の様子を伝える（HP や掲示板で）
- ・保護者と園で子どもの成長を共有しあう
- ・園でしたことを写真や文章で紹介する

園での行事などの充実

- ・子どもも一緒に竹遊び、畑仕事、近大病院との連携事業
- ・園行事の充実（園で親子で体験し、それが家庭での遊びなどにもつながる体験）
- ・親子で目標ある取組（栽培物、なわとび、など）
- ・保育園内で習い事に参加できたらありがたい

- ・園には民生委員の方や地域の方々に来ていただいてイベントを行ったりして、交流させてい
ただいているが、そのイベントに親が参加していることが無いので民生さんの方々と親との
交流があってもいいのかと

様々な人や世代のつながり

- ・地域のいろいろな人との関わりがもてる機会を増やす、地域に開かれた園づくり
- ・親も地域の人たちと知り合いになると交流が生まれる
- ・様々な年代の人たちが住む町はおもしろい
- ・寺子屋的な存在がほしい、第三者の関わり
- ・地域の高齢者と子どもたちがふれあえるイベントがあれば

子育て層が参加しやすいイベント

- ・園、市、PTA が行うイベントは平日が多い、仕事があっても参加出来る土日祝にしてもらえ
れば
- ・園が親子イベントを企画したり、紹介したりする(親子で参加する意味なども伝える)
- ・毎日1回決まった日にフリーマーケットなど開催イベントがあれば参加したい

子どもが遊ぶ場、環境

- ・子ども CAMP をもっと増やす
- ・大人のサークルに子どもも入れれば視野が広がる
- ・子どもたちが自由に遊べる里山があれば
- ・親自身が楽しんで。子どもに伝えることが一番伝わる
- ・室内遊具の有る施設が欲しい(ドリーム 21 のような)

■子育てを楽しめるまちを実現するためには？

◎生駒のまちにある資源（使えるもの）は？

施設・イベント

- ・施設やイベントはたくさんあるけど、アピールをしてもっと人を集めるべき
- ・学校、園同士が近くにある

人のつながり

- ・地域のつながりがある
- ・地域の高齢者を子育てにまきこむ！
- ・民生委員さんによる昔遊び、紙芝居など

自然、農、ものづくり

- ・地域の方と田植え、野菜作り
- ・自然との関わり、農業などの直接体験
- ・高山、竹あかり、ものづくりの場

◎できることを考えよう！（保護者や市民として、保育園・幼稚園・こども園として、行政に手伝ってほしいこと）

<自分たちでできること>

- ・高齢者と子どもが交流できる機会をつくる
- ・地域の大人同士の交流
- ・色んな事を前向きに取り組めるよう周りの声掛け
- ・横のつながりを深める（親同士）
- ・人をあてにせず、自分でできることは自分でやる
- ・地域組織のあり方、保護者会のあり方を検討する（変えていくのも大変。おもいだけでは続かない）

<保育園・幼稚園・こども園としてできること>

- ・地域の特色を生かした行事
- ・地域との連携、園の開放、逆に子どもが地域に出る(デイサービス等)
- ・子育ての先輩、高齢者との関わりの機会をうまく取り入れる
- ・専門機関としての役割をする

<行政に手伝ってほしいこと>

- ・園児がこれ以上減少しない対策
- ・子どもが少なくなってる中、自治会、子ども会で行事ができない。市単位で企画、運営を手伝ってほしい
- ・子育ての情報やイベントの提供
- ・生駒市のアプリなどを作ってアピールしてほしい、市民をファンにする(情報、口コミなど)
- ・病院保育ができる所を増やしてほしい
- ・保護者会の負担の軽減
- ・駅周辺の環境整備（歩道がない、あってもガタガタ、ななめ。ベビーカーなど押しにくい）
- ・教育への予算
- ・放課後の預かりの内容を深める(乳母的に)
- ・地域の人との連携
- ・いろいろな年代の人、いろいろな立場の人が集える場所を作ってほしい
- ・在園児の園生活の保障をしながら、未就園、高齢者が集える部屋があれば

グループ3

グループワーク1：子育て楽しい？

- 子育てを「楽しい」と思う瞬間はどんな時ですか？
- どんなことが楽しいのでしょうか？

子どもがいるからできた！

- ・子どもときの感覚をふっと思い出させてくれるとき
- ・地域のイベントに参加したとき
- ・季節の行事を一緒に楽しめるとき
- ・一緒に絵本を読んでいるとき
- ・子どもの視点で物事を見れること
- ・子どもと一緒に絵本を読んでいるとき
- ・食べ物を素直に美味しいかまずいかはっきり(正直に)言うとき
- ・子どもがきっかけで知らない方とお話ができるとき
- ・ママ友と楽しくおしゃべりしているとき
- ・週末の家族団らんのとき
- ・子育ての悩みを保護者と語りあい、気持ちが分かり合えたとき
- ・教員間で連携し一体となって保育をするとき

子どもの成長、表情、気付きがうれしい！

- ・先生から子どもの成長を聞かせてもらえるとき
- ・ちょっとしたことで甘えてくるとき
- ・お友達と楽しそうに遊んでいる姿を見ているとき
- ・保育園での様子を聞くと、家では違うよそ行きの行動をしているとき
- ・子どもから意外なアイデアが出てきたとき
- ・子どもたちの声や愛らしさに自分が元気をもらえたとき
- ・ひとりぼっちの母親が活動の場所で仲間をみつけれられたとき
- ・なにげない声でお母さんの表情が明るくなったとき
- ・子ども同士で(兄妹)遊んでいるのを見るとき
- ・地域の子どもと楽しそうに遊んでいる姿を見たとき
- ・時間が経過するとともに子どもの成長や変化に気づいたとき
- ・子どもが抱きついてきたとき
- ・親しみを込めて話すことが出来たとき
- ・友達と一緒に遊びをすすめている瞬間
- ・一緒に行事をしたときに互いに楽しめたとき
- ・家に帰ってから園での様子を話してくれるとき
- ・子どもの困っていることを考えたとき手立てが考えられる
- ・生活の中で出来なかったことが出来る様になったとき

- ・子どもたちが遊びの中で様々なことを発見した瞬間を見たとき
- ・一緒に体験をし、共感できたとき
- ・御近所の方から子どものことをほめていただけるとき
- ・昨日出来なかったことが、今日急に出来る様になったとき
- ・ささいな成長を発見したとき
- ・出来なかったことが出来る様になったとき
- ・子どもが自分の間違いに気づき、行動を改めることが出来たのを見たとき
- ・眼の輝きを見ることが出来たとき
- ・子どもが成長したなあと感じる場面を見たとき
- ・子ども一人一人の成長をそばで実感できるとき
- ・かかわっている子どもの成長を感じられるとき
- ・子どもが新しい事が出来るようになって、成長を感じたとき

地域で楽しむ！

- ・おばあちゃんたちに聞いてもらえるだけでホッとすると言われたとき
- ・子育てのことで近所、保育園の保護者の方と話をしたとき
- ・御近所の方が子どもの様子、成長を気にしてくださるとき
- ・地域の方や小学校など様々な方と子どもを通して交流が出来たとき
- ・保育園、学校で楽しかったことを笑顔で報告してくれているとき
- ・大きくなった子どもたちに町であって声をかけてもらったとき
- ・工夫してやったことに喜んでくれたとき
- ・園に笑顔で登園してくれるとき

グループワーク2：子育てを楽しむために

■子育てを楽しむために必要なことはどんなことでしょうか？

保護者の交流

- ・気持ちを打ち明けられる相手を見つけられる環境
- ・先生のお話を聞き、懇親会だけでなく、保護者同士がざっくばらんにおしゃべりできる機会を年に数回設けられること
- ・趣味のあうママ同士が知り合える機会
- ・保護者の方々が交流できる機会を設ける
- ・親の息抜きが出来る場所作り(幼稚園お残り保育、一時保育)

サードプレイス

- ・各施設を夏休み、土日など利用できるように地域の住民の力を借りて開放しては・・・
- ・幼、保の交流などで園のスペースを活用していく
- ・保育園の公開交流の充実
- ・幼稚園に行った子も利用できる施設があればいい
- ・ポーネルドみたいな室内の遊び場

- ・図書館の時間の延長(19時くらいまで)

保育園、幼稚園等の環境・プログラム等の充実

- ・遊びの環境が豊かであったら・・・(特に自然を感じられる環境)
- ・カリキュラムは最低限で子どもの自由な発想を伸ばせる環境作り
- ・年齢別の分け方でなく、縦分りクラス
- ・日常的に単純な楽器に触れさせたい
- ・のびのび楽しく過ごせるための環境
- ・保育園での時間外の習い事の充実
- ・親子で地域に出掛ける機会をもつ
- ・保護者の保育参加で子どもたちと一緒に体験を
- ・未完成の遊具、昔ながらの遊びも日常的に
- ・すぐに触れることのできる身近な自然環境
- ・子どもがのびのびと遊べる場(公園など)があること

異年齢の未就学児同士の交流の機会

- ・異年齢の支援の場を設ける
- ・地域の就学前の子どもが集えるきっかけ(保、幼が一緒に)

人材の充実

- ・専門的な見地を持つ人が園内にいてほしい(特別支援)
- ・もっと男性保育者を・・・

地域との交流、イベント

- ・高齢者と共に関わる場所があればいい
- ・地域の高齢の方との交流を月1回はしてほしい(理解を得るために)
- ・地域の異年齢の方と交流が出来る機会(米づくり、野菜づくりなど)
- ・地域活動の充実、もしもの為の訓練、こども食堂の様な機会
- ・地域毎に子どもと共に行事に参加して下さる方を募集する
- ・子育て支援のために夏休み映画会を行っています。親子で楽しんでもらえるように！！
- ・毎月1回朝のあいさつ運動を行っている、ティッシュ配り
- ・高齢者の方に昔ながらの遊びを教えてもらう機会を設ける
- ・地域とのつながり
- ・待ちの安全性(ボランティアパトロール)
- ・子どもたちの生活の中に地域の方が自然に入ってくる事が出来る環境づくり(ボランティア)
 - (栽培、絵本読み聞かせ)
- ・困ったときに頼れる人、施設
- ・南地区ではイベントを開催できる「せせらぎ」という施設がある
- ・地域の方をまねいて、行事などに参加していただく機会を持つ
- ・地区(地域ぐるみ)でのイベントに親子で参加出来る機会を作る

■子育てを楽しめるまちを実現するためには？

◎生駒のまちにある資源（使えるもの）は？

公園等の施設や自然・文化を体験できる環境

- ・公園の集い
- ・小さな公園がたくさんある
- ・自然の中で親子トレッキング、ハイキング
- ・足湯、山で散歩（自然）
- ・使っていない田んぼなどを開放してもらい、子どもの遊び場として使用しては・・・
- ・昔遊びを日常的に体験できる場所
- ・田植え経験
- ・ハード面の活用（はばたきホール、図書館、竹林園、公園など）、クローラム（自然物を使った遊び）

地域の活動・イベント

- ・神社のお祭りがいろいろある(桂馬大社、宝山寺)
- ・ファミサポ制度
- ・沢山、高齢者のサロンがある
- ・生駒幼稚園ではママのクラブがあります(テニス、絵本読み、陶芸、ストレッチ)
- ・たわわ食堂
- ・季節毎にあるイベント(エコやグリーンなど)
- ・東地区は生駒小、東小、緑中の持ち回りで毎年映画会を開催
- ・手作り市が多い、こま市、いこままマルシェなど、茶帽子、ルシュルシュ
- ・緑ヶ丘の子ども会でハロウィンの Trick or Treat を地域ぐるみで実施（未就園児も参加可）
- ・図書館で絵本との出会い（おはなし会）
- ・幼、保、小交流

多様な人材

- ・特技をお持ちの高齢者がたくさんおられる（三味線、手芸、etc）
- ・小学校の先生の訪問事業、学生活用
- ・地域の方の活用(民生委員、老人会、スクボ)
- ・学生、エコ体験、ALT、人材の活用
- ・わらを使って昔の物を作ることができる人がいる

◎できることを考えよう！（保護者や市民として、保育園・幼稚園・こども園として、行政に手伝ってほしいこと）

<自分たちでできること>

- ・協力（都合が付く保護者が時間外で幼稚園スペース等を貸してもらい、子どもを見るなど）
- ・自分の仕事、特技を生かしたボランティア（おえかき、工作など）
- ・保護者の特技を生かしたサポートティーチャー

- ・ イベント時の見守りやお手伝い
- ・ 学生が参加可能なボランティアに積極的に参加する
- ・ こども食堂の立ち上げ、手伝いなど
- ・ 子どもたちが交流できるイベントの企画
- ・ 地域サロンの開放の手伝い
- ・ 各地区に沢山ある高齢者のサロンと子育てサロンを合体させる
- ・ ボランティア活動の充実
- ・ 高齢者施設の交流
- ・ 電車、バス、ケーブル、公共交通機関を使ったスタンプラリー的イベントの実施

<保育園・幼稚園・こども園としてできること>

- ・ 施設の開放、交流
- ・ 幼、保、小交流、連携→カリキュラム面職員同士で

<行政に手伝ってほしいこと>

- ・ 事務の効率化、書類のデータベース化（共有、紙媒体へらす）、枠組みづくり
- ・ 高齢者、保護者世代の人材バンク
- ・ 人材活用バンク作り→広報活動(保幼職員に周知)
- ・ ボランティアの登録、配置
- ・ 幼稚園、保育園の自由度の増加
- ・ 保幼←→小との人事交流
- ・ 高齢者と子育て支援者との交流をつなぐ役割、場所
- ・ 保、幼へのボランティア派遣
- ・ 教職員、余裕のある配置を、預かり、事務面、クラス人数など

グループ4

グループワーク1：子育て楽しい？

■子育てを「楽しい」と思う瞬間はどんな時ですか？

■どんなことが楽しいのでしょうか？

笑顔

- ・子どもの笑顔
- ・子どもが笑顔で過ごしているとき
- ・子どもの笑顔を見たとき
- ・出来たときの笑顔
- ・子どもがきらきらしているとき（うれしい、できた、おいしい）

子どもの成長

- ・今まで出来なかったことが出来る様になり、成長を感じられる。又、そのときと一緒に過ごせる幸せ
- ・子どもの成長を感じる事が出来たとき
- ・近隣の子どもたちの成長を感じたとき
- ・何度も伝えていたことが自然に身についてくれたとき
- ・一緒に目標を達成できたとき
- ・子どもが人に優しくしているところを見たとき
- ・日々の何気ない子どもとの会話、成長が見られたとき
- ・子どもに夢を教えてもらったとき
- ・子どもからの優しい一言
- ・子どもの面白い考えを知るとき

親としての成長

- ・子どもが上手く表現できないことを上手く汲み取れたり、手伝えたとき

共感、共有

- ・遊びを通して楽しさを共感し合えるとき
- ・子どもが楽しいと感じるときに、一緒に楽しむこと

子どもをきっかけとした広がり

- ・子どもの興味で世界が広がり、一緒に楽しむとき
- ・子どもから今の流行を教えられるとき

子どもをきっかけとした人とのつながり

- ・おじいちゃん、おばあちゃんが元気になる
- ・地域の子どもたちと日常的な関わりを持つとき
- ・子どもがいるから話すようになり、家族の結びつきができる。いろいろなイベントをするようになるし、実家にも帰る
- ・子どもを通して母同士のつながりが出来、色んな関わりが出来るとき

- ・地域のお祭でおじいちゃん、おばあちゃんと関わることができる
- ・育児の話(悩み、不安)を話せる人がいる
- ・家族のお話を聞かせてくれる
- ・夫婦の絆ができる

グループワーク2：子育てを楽しむために

■子育てを楽しむために必要なことはどんなことでしょうか？

幼稚園、保育園、こども園の環境

- ・幼稚園は親同士のつながりが密だが、保育園はあまりない。こども園での親同士のつながり、役割の負担などが課題（幼稚園の親に負担がいきがち）
- ・こども園、保育園、幼稚園の保護者の役割分担
- ・親の負担を減らすことは必要だが、出会いの場にもなるので、全く無くすのはよくない
- ・PTAが人気となり、立候補者がいるような環境づくり
- ・やらされてる感が出る可能性があるが、役割を負担すればポイントがつくポイント制もある程度は必要
- ・保護者に限らず、地域のお年寄り含め担ってもらうことが必要
- ・請け負ってくれる会社があるので、そういうところに一部任せるとも有
- ・頑張っている保護者がいることを伝える機会が必要
- ・保護者が意見を言える場づくり
- ・生駒市の園の先生として働きたいと思う環境づくり
- ・園の先生の数を増やし、親の負担減につなげる
- ・教員の給与UP、保障面の改革
- ・広い環境、多い児童
- ・地域の人も関われる、開かれた園
- ・子どもの成長を知らせてもらえる

つながりづくり

- ・親子参加のイベントやワークショップ
- ・年齢を超えたつながりができる場、共生の場
- ・異年齢の子どもと遊ぶ(関わる)機会
- ・地域の関わりを濃くしていく（すくすくサロン、園児の畑活動、ボーイスカウト等）
- ・子育て支援関係の活動をしている大学生など、様々な機関を通してのつながりをつくる
- ・保育園のママのつながり
- ・幼稚園と保育園の交流があればいい（小学校に行く前）

親の息抜きの時間

- ・地域の方々との関わりの中で助け合いをし、負担を減らす（いろんなことできるお母さんがたくさんいるので、そういう人が活躍する）
- ・親（大人）だけで過ごせる時間

遊び場

- ・雨天時などの遊び場(保育時間外)
- ・南児童館への交通の便が悪い
- ・就園前の子どもと遊べる場所づくり
- ・親子で遊べる場所

情報・相談

- ・情報発信の場をつくる
- ・相談できる場
- ・周りの人の助けを受けられるようにする
- ・公園やSNSを通じて、情報交換が出来る場を提供する
- ・楽しく子育てが出来るための知識を知る事が出来る
- ・意見を言える場所をつくる

■子育てを楽しめるまちを実現するためには？

◎生駒のまちにある資源（使えるもの）は？

自然環境・文化

- ・自然の豊かさ
- ・豊かな自然
- ・豊かな自然文化
- ・生駒の文化、竹
- ・アトピー改善
- ・環境のよさ

人

- ・学生、高齢者のボランティアがいる
- ・お年寄りとの交流が持てる
- ・高齢者

空き家

- ・空き家

子育て支援

- ・市民が選択できる様々な子育て支援
- ・コミュニティセンターや児童館をもっと使いやすく、また、もっと広める

園・学校

- ・幼稚園の子ども減少ストップ
- ・学校・大学

その他

- ・所得が高い
- ・大阪への交通の便利さ

◎できることを考えよう！（保護者や市民として、保育園・幼稚園・こども園として、行政に手伝ってほしいこと）

<自分たちでできること>

- ・外で安全に遊べるように地域に目を配る
- ・ボランティア等の子どもが遊べる場づくりに関わる
- ・PTA など園行事に参加する
- ・地域、親同士のつながりを広げる
- ・地域の方との助け合い
- ・学生ボランティア
- ・地域をこえた活動

<保育園・幼稚園・こども園としてできること>

- ・園と親、親と親、子どもと地域のつながりをつくる
- ・親子で楽しめるイベント作り
- ・情報の提供
- ・幼稚園、保育園合同でお祭りなどのイベント開催（作成物の負担減）

<行政に手伝ってほしいこと>

- ・子育て、高齢者の社会参加、バス、買い物などの支援
- ・子どもに関わるクリニックの誘致（産科など）
- ・遊び場の提供(空き家を改築し、交流の場とする。高齢者に活躍してもらおう)
- ・二世帯住宅ができるよう建ぺい率、容積率の緩和
- ・園の職員の給与の改善、職員の増加
- ・人材確保
- ・地域活動の増加
- ・情報交換の場づくり
- ・情報発信
- ・PTA や自治会でうまくいっているところを PR
- ・待機児童をなくす
- ・短時間からの預かり保育